



亀山市名誉市民

彫刻家  
**中村 晋也**  
Shinya Nakamura

作品介绍

ふるさとあい  
Vol. 120

## 「おもかげ」

令和8(2026)年

「今年も桜を見られましたね」

99歳の誕生日を迎えた道子夫人と笑みを交わしたのは昨年3月。それから間もなくして夫人は清らかな世界に旅立たれました。この像は在りし日の道子夫人をモデルに制作された作品です。小鳥のヒナをそっと手に乗せ佇む姿からは、慈愛と優しさがあふれています。

4月、一周忌の法要が終わると、仏壇の横にこの像がそっと置かれていました。おもかげの像は、毎朝手を合わせる100歳間近の中村晋也を優しくほほ笑んで見守っています。

(高さ)93cm × (幅)30cm × (奥行)30cm  
中村晋也美術館



特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



## ★ 日本語を教える楽しさがつなぐ多文化の輪

服部 さとみさん  
(住山町)



外国籍の市民が日本語を学べる場として、市と協働で日本語教室「はじめのいっぽ」を運営。平成22年にスタッフとして活動をはじめ、令和3年度から代表を務める。教室には幅広い年代のスタッフ22人が関わり、毎週土曜日(夜間)に青少年研修センターで開催(4~12月)。JICA中部「なごや地球ひろば」にも登録し、随時ボランティア活動に参加。

毎週土曜日の午後7時を過ぎると、日本語教室にはスリランカ、インドネシア、アメリカなど多様な国籍の人が集まります。初級から上級までの3つのクラスに分かれ、日常生活に必要な日本語を学びます。服部さんは、「買い物や病院で困らないようになれば生活はぐっと楽になる。ここに来れば仲間ができ、交流が広がります」と語ります。雨の日も暑い日も、自転車で通う受講生の姿に胸を打たれることも多く、「修了後にスタッフとして運営を手伝ってくれた人もいますよ」と目を細めます。

活動の始まりは、広報亀山で見つけた研修の参加でした。見学を経てスタッフとなり、気づけば16年目。代表として4年目を迎えた今も、「外国の人に日本語を教えることが純粋に楽しくて続けてこられた」とほほ笑みます。教室では、読み書きの学習だけでなく、蛍の観賞や七夕、



習字など日本文化に触れる活動も実施。習字作品は図書館に展示され、今年も作品とともに出身国や仕事を紹介したいと新たな展望を描きます。「もし自分が外国で暮らしたら、きつと言葉で苦労するはず。だからこそ、その壁を越える手助けをしたい」と力を込めます。

「亀山に日本語教室があることをもっと知ってほしい。どなたにも気軽に来てもらえたら」と語る服部さん。その想いは、誰もが安心して暮らせるまちづくりへの力強い一歩です。日本語を教えられるボランティアも募集中です。気軽に見学にお越しください♪